

新収蔵資料抄

近世日本の災害と宗教 呪術・終末・慰霊・象徴

朴 炳道／著 吉川弘文館 2021.3 発行

本文 325p 22cm 162.1/ネ 13 2021.4.30 受入 定価 12,000 円＋税

目次

序 章 「災害と宗教」研究序説

第一章 「災害見聞記」からみる呪術と終末—寛文二年の近江・若狭地震と『かなめいし』—

第二章 近世火災における死・埋葬・慰霊—明暦三年の大火と回向院の開創—

第三章 近世飢饉における死・埋葬・慰霊—享保十七～十八年の大飢饉と飢饉死者—

第四章 近世災害死者をめぐる認識と実践—「無縁」の近世的意味—

第五章 近世疫病における災害の象徴化—文久二年の麻疹大流行と「はしか絵」の登場—

第六章 幕末災害の象徴化と「災害錦絵」—「痘瘡絵」「鯨絵」「はしか絵」「コレラ絵」の相互比較を通して—

終 章 まとめと展望—「災害と宗教」研究の可能性—



最寄り図書館に取り寄せ可

資料概要

本書は、近世日本において起きた災害に対して、人々がどのように対処したのかを、「呪術」「終末」「慰霊」「象徴」をキーワードに当時の記録を紐解き、宗教学的な視点から災害を捉え直そうとするものである。

取り上げられる災害は、①明暦の大火 (1657 年)、②近江・若狭地震 (1662 年)、③享保の大飢饉 (1732~33 年)、④浅間山天明大噴火 (1783 年)、⑤天明の大飢饉 (1782~88 年)、⑥島原大変肥後迷惑 (1792 年)、⑦天保の大飢饉 (1833~39 年)、⑧安政江戸地震 (1855 年)、⑨安政コレラ大流行 (1858 年)、⑩文久麻疹大流行 (1862 年) の、天変地異、大火、飢饉、疫病である。

仮名草子作家・朝井了意『かなめいし』、『むさしあぶみ』、藤野達善の『飢人地蔵物語』などを「災害見聞記」として読み解き、供養塔や地蔵像の銘文から災害死者の呼び方を調べ、生者の死者に対する認識を改め、「鯨絵」「コレラ絵」などの錦絵が分析される。

これらから分かるのは、当時の人々の災害との向き合い方と心のありようである。呪文を唱える、家に札を貼る、神社に参詣してご神託を求める。人々は非日常的で強力な力を目の当たりにして「終末」が意識される。

こうした災害では、身元の判明しない死者が数多く発生し、ときには否応なく集団埋葬が行われ、個々人の死とは違った慰霊が行われる。個別埋葬できない「無縁死者」が生じる一方で、生者も死者個人の所在を特定できないことで「無縁の生者」化する。喪失したものが他の

生者と共有され、生者のトラウマの緩和・治癒にもつながっていく。こうした「無縁」の概念は、災害を克服するための認識論的、実践的努力であったと著者は考える。

「災害錦絵」と総称する錦絵を、災害を認識化、象徴化するものとして分析する第五章、第六章も興味深い。災害錦絵とは、災害時に流行した「鯨絵」「はしか絵」「コレラ絵」などであり、護符や鎮静祈願の意味のほか、疫病養生の心得を説いた。このうち鯨絵では、鹿島大明神と鯨とが象徴変換された例があり、その理由を災害ユートピアや災害世直しと関連づけて考察されている。

「災害はなぜ起きたのか」「どうすれば防げるのか」。災害錦絵は、近世の人々がさまざまな災害をどのように解釈し認識したか、災害に際してどのような行動をとったかを伝えている。本書はこうした災害錦絵の興味深さもあらためて教えてくれる。

著者紹介

朴 炳道(パク ビョンド) 1981 年、韓国生まれ。2019 年、東京大学大学院人文社会系研究科宗教学宗教史学専門分野博士課程修了(文学博士)。現在、日本学術振興会外国人特別研究員(東北大学文学研究科)。主な著書・論文=『現代韓国語訳・校注『逆賊呂還等推案』』(共訳註、韓国:民俗苑、2010 年)、『近世飢饉災害における宗教者の救済活動:施行と水陸会』(『東北宗教学』16、2020 年)、『災害』としての近世日本の『疫病』と宗教的対処(国際宗教学研究所編『現代宗教 2021』、2021 年)など。

裏面で県立図書館所蔵の災害見聞録、災害錦絵関連資料を紹介。

本紙は、県立図書館が新たに所蔵した資料(図書資料・視聴覚資料)から、ぜひご利用いただきたいものを厳選してご紹介するものです。これらの資料は、禁帯出資料を除き、最寄りの図書館に取り寄せできます。

なお、本紙の内容は Web にも掲載しています。ご覧の際は右の QR コードをご利用ください。

また、内容の誤り等、お気づきの点があればお知らせくださるようお願いいたします。



群馬県立図書館所蔵の 近世災害見聞録、災害錦絵関連資料

見聞記・錦絵	収録書名・巻号	責任表示	出版者	出版年	資料コード
かなめいし	新編日本古典文学全集 64	浅井了意／著 井上和人／校注・訳	小学館	1999	06715296 ※汚損あり
	假名草子集成 第18巻		東京堂出版	1996	17405226
むさしあぶみ	日本随筆大成 第3期第3巻	[浅井了意／著]	日本随筆大成刊 行会	1929	02408482
はしか絵	はやり病の錦絵		内藤記念くすり 博物館	2001	08745358
鯨絵	鯨絵 震災と日本文化	宮田登・高田衛／監修	里文出版	1995	05614425
	鯨絵 民俗的想像力の世界	C.アウエハント／著 小松和彦ほか／訳	岩波書店	2013	13257936
	江戸っ子気質と鯨絵	若水俊／著	角川学芸出版	2007	12804910
麻疹絵・疱瘡絵など	図録日本医事文化資料集成第4巻 日本医史学会／編		三一書房	1978	00886028

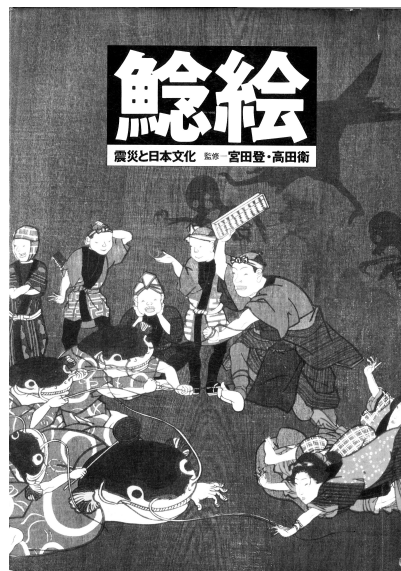
※ 上掲のほか、災害研究論、災害史等の資料も多数所蔵しています。

右の「麦殿は…」の歌は江戸期の麻疹除けのまじないとされるもの。「麦殿」は半田稻荷の祭神。疫病除けには、麦殿のほか、鍾馗様、鎮西八郎為朝、牛頭天王など、多くの「ヒーロー」がいて、種痘が導入されてからは保赤牛痘菩薩や牛痘児も現れた。逆に悪玉も擬人化される。右下図『はやり病の錦絵』の表紙で大勢に組み伏せられているのは酒吞童子風の麻疹神。

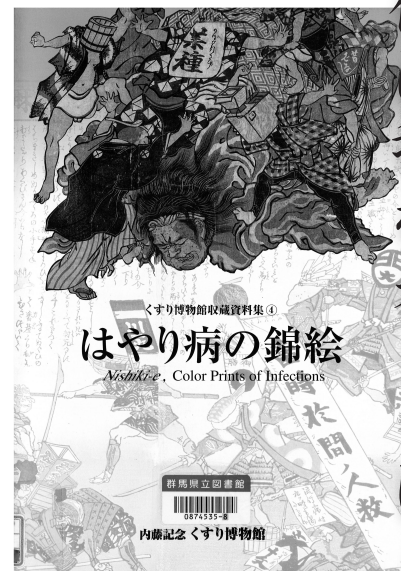
下左図のC.アウエハント著『鯨絵』の表紙では、地震を起こすと考えられていた鯨の頭の上に、鯨が動かないよう「かなめいし」が据えられ、それを押さえる鹿島大明神が民衆に崇められている様子が描かれている。中央の『鯨絵 震災と日本文化』は大判で、図版を見る楽しみもある。



『鯨絵 民俗的想像力の世界』
岩波書店, 2013



『鯨絵 震災と日本文化』
里文出版, 1995



『はやり病の錦絵』
内藤記念くすり博物館, 2001

麦殿は生まれぬ先に麻疹して
かせたる後に我が身なりけり